

日文研・アイハウス連携フォーラム⑨

海賊史観からみた世界史500年 — 『文明の海洋史観』の裏面を覗く

講師：稲賀 繁美 日文研 副所長・教授

コメンテーター：鞍田 崇 明治大学准教授

2016年 **10/14 (金)** 6:30-8:00 pm (開場6:00 pm)

会場：国際文化会館 講堂

用語：日本語 参加費：無料 (要予約)

インターネットの発達や世界的な物流・金融の変貌とともに、従来の国民国家中心の世界秩序は現在大きく揺らいでいます。その問い直しのためには、世界史を500年遡り、いわゆる大航海時代の西洋列強による領土の分割、自然資源の搾取、労働力としての人的資源の再配置などを再考察することが不可欠です。歴史的に国際的な商取引の重要な部分は違法に行われ、その規制のために公海の規定を含む国際法が確立されました。よって、いわゆる海賊行為の再定義が、学術的にも重要です。本講演では海賊行為をとりまく常識に再検討を加え、文化史、物流史の観点から、世界交易の過去・現在さらに近未来を稲賀氏に展望していただきます。



稲賀 繁美 (日文研 副所長・教授)

パリ第七大学 (新課程) 博士課程修了。東京大学教養学部助手 (フランス文化・言語)、三重大学助教授 (比較文化、ヨーロッパ・地中海コース担当)、国際日本文化研究センター助教授、同教授を経て、2016年より現職。専門分野は、比較文学比較文化・文化交流史。主な著作に『接触造形論』(名古屋大学出版会、2016年)『絵画の臨界』(同、2014年)、『絵画の東方』(同、1999年)などがある。



鞍田 崇 (明治大学准教授)

1970年兵庫県生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士 (人間・環境学)。総合地球環境学研究所プロジェクト上級研究員、特任准教授を経て、2014年より現職。専門は哲学・環境人文学。著作に『民藝のインティマシー「いとのおしさ」をデザインする』(2015年)、など。2016年1月より、月刊誌『なごみ』(淡交社)にて、「茶の湯と民藝—そのまなざしの先へ」連載中。

❖ 国際文化会館 (アイハウス) と国際日本文化研究センター (日文研) は、多角的に現代日本の理解を深めるためのフォーラムをシリーズで共催しています。

お申し込み・お問い合わせ

国際文化会館 企画部 (月-金 9am-5pm)

東京都港区六本木5-11-16 TEL:03-3470-3211

E-mail: program@i-house.or.jp www.i-house.or.jp

📄 講演当日、予約確認メールまたは本チラシをご提示の上、国際文化会館内のレストランでお食事いただいた方には食後のコーヒー/紅茶もしくはアイスクリーム(ザ・ガーデン)、グラスワイン(SAKURA)をサービスいたします。ご利用の際は、事前ご予約をお勧めいたします。



※ご来館の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。